

SEKISUIKASEI

2022年3月期決算 及び

新中期経営計画（2022-24年度）

Spiral-up 2024

説明資料

積水化成品工業株式会社

（東証プライム 証券コード：4228）

2022年5月11日



目次

1 2021年度 決算概要

2 前中期経営計画総括

3 新中期経営計画

目次

1 2021年度 決算概要

2 前中期経営計画総括

3 新中期経営計画

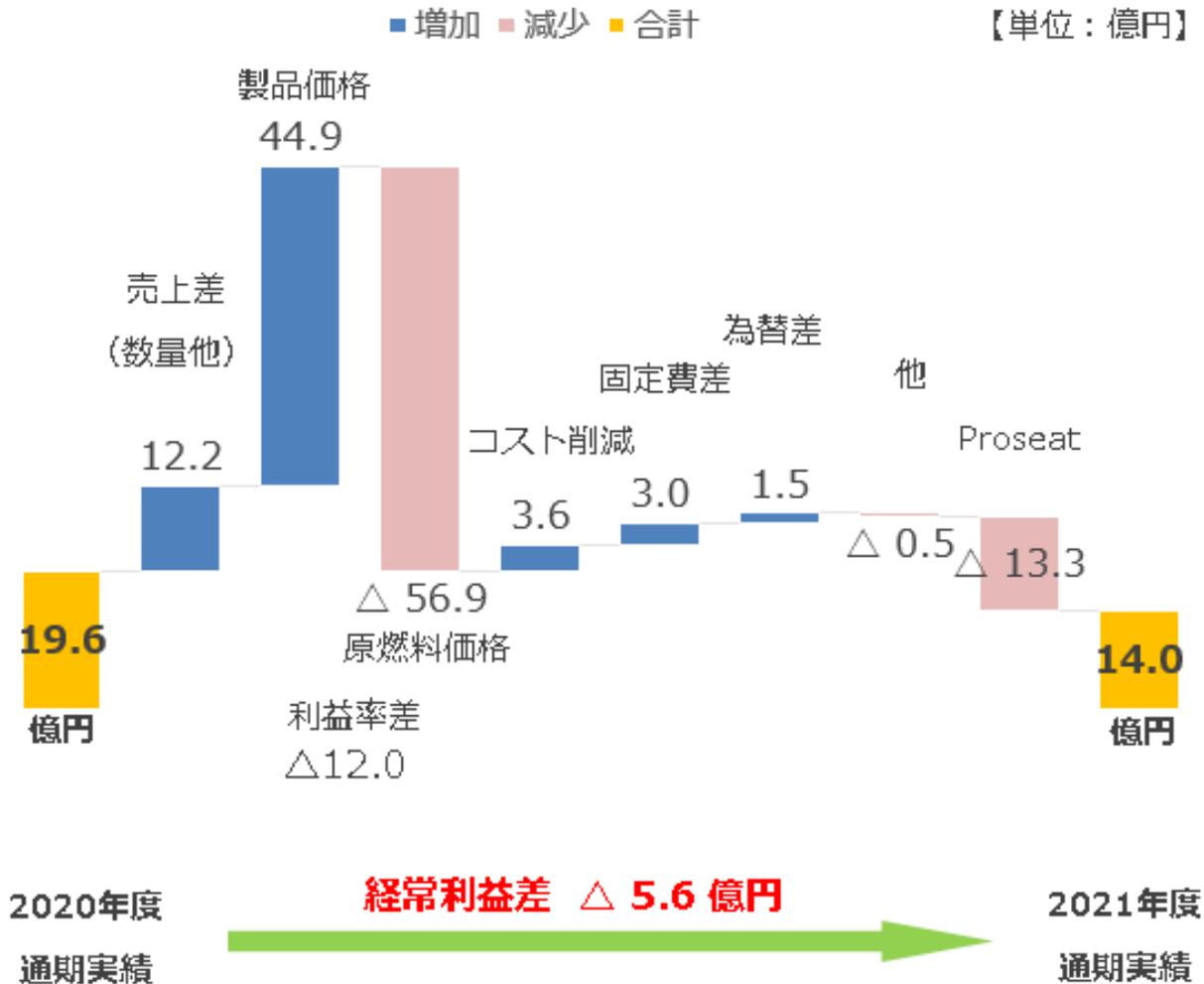
2021年度 決算概要

(単位：億円)	2020年度 通期	2021年度 通期		前年比		直近公表対比	
	実績 (A)	直近公表 (B)	実績 (C)	(C)-(A)		(C)-(B)	
売上高(※)	—	1,160	1,178	—	—	18	102%
下段(旧基準ベース)	(1,189)	(1,276)	(1,301)	(113)	(109%)	(25)	(102%)
営業利益 <営業利益率>	20.9 <1.8%>	7.0 <0.6%>	14.6 <1.2%>	△ 6.3	70%	7.6	209%
経常利益	19.6	5.0	14.0	△ 5.6	72%	9.0	280%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11.3	△ 66.0	△ 59.2	△ 70.4	—	6.8	—

(※) 2021年度以降の売上高は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)を新たに適用したものです。

- 売上利益共、直近公表値を上回るも、前年比では大幅減益
(売上は同一会計基準で前年比109%)
- 生産性向上や固定費削減に努めるも原燃料高騰と欧州Proseatの採算悪化が影響
- 特に最終利益ではProseatグループの減損損失計上により大幅赤字

2021年度 經常利益増減要因 (対前年比)



2021年度 工業分野 業績

(単位：億円)	2020年度	2021年度	前年比	
	実績 (A)	実績 (B)	(B) - (A)	
売上高(※)	—	683	—	—
下段(旧基準ベース)	(654)	(722)	(68)	(110%)
営業利益	△ 6.9	△ 13.3	△ 6.3	—
経常利益	△ 9.6	△ 17.8	△ 8.2	—

(※) 2021年度以降の売上高は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)を新たに適用したものです。

- 売上 前年度のコロナ影響から一定の回復傾向 ※同一会計基準で前年比110%
但し、自動車は半導体不足により想定より回復遅れ
- 利益 生産性向上や固定費削減などに取り組むも、原材料高騰やサプライチェーン混乱などの影響を受け「大幅減益」

自動車 売上面は、前年よりも自動車部材で販売回復も、梱包材は若干減
利益面は、原材料高騰と自動車の急激な減産によるコストアップで「大幅減益」
(特に欧州Proseatで前年比 約△13億円)

家電・IT 液晶関連でテクポリマーが順調に推移、ピオセラン梱包材が下期に低調も、全体として「好調」
医療・健康 需要回復で前年を「大幅に上回る」(テクノゲル・化粧品向けテクポリマー・エラストイル)

2021年度 生活分野 業績

(単位：億円)	2020年度	2021年度	前年比	
	実績 (A)	実績 (B)	(B) - (A)	
売上高(※)	—	495	—	—
下段 (旧基準ベース)	(535)	(580)	(45)	(108%)
営業利益	38.6	33.8	△ 4.9	87%
経常利益	37.5	33.8	△ 3.8	90%

(※) 2021年度以降の売上高は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)を新たに適用したものです。

- 売上 水産は低調、食品容器と建材は好調、原料高による販売単価上昇も影響
※同一会計基準で前年比108%
- 利益 生産性向上や固定費削減などに取り組むも、原材料高騰などの影響を受け「減益」

食品容器	ラミネート容器の需要回復や販売単価の向上により「好調」
農水産	農産は堅調も、水産は漁獲量と外食産業需要の低迷が続き、前年を「やや下回る」
建材・土木	軽量盛土ブロックの大型案件受注などで「順調」

シート 数量	昨年からの内中食需要は安定も、落ち着きをみせ前年を「やや下回る」
ビーズ 数量	農水産で減少も、弱電・土木・ライフグッズ向けの増加で「好調」

2021年度 設備投資の状況

(単位：億円)	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績
設備投資額	58	78	74	53	54	38
減価償却費	36	41	45	61	62	62

- 2021年度は収益状況と市場環境変化の見極めなどにより投資を抑制

2021年度 株主還元（配当）

	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 (予定)
1株あたり当期純利益(円)	73.03	75.33	69.09	51.29	24.86	△ 130.99
1株あたり配当(円)	24	27	30	30	21	12
配当性向(連結)	33%	36%	43%	59%	85%	—
自己株式取得(百万円)	718.5	621.2	—	—	141.5	—
総還元性向(連結)	54%	54%	43%	59%	97%	—
ROE	5.7%	5.5%	4.8%	3.6%	1.6%	—
自己株式消却(万株)	100	—	—	—	—	—

- 中間配当5円/株、期末配当7円/株、年間12円/株を予定

2021年度 財政状況

(単位：億円)	2019年度 (A)	2020年度 (B)	2021年度 (C)	前年比 (C) - (B)
総資産	1,491	1,584	1,433	△ 151
純資産	672	707	582	△ 124
自己資本比率	44.1%	44.2%	40.1%	△4.1%
1株あたり純資産	1,450円32銭	1,549円84銭	1,272円86銭	△276円98銭
(参考) 自己資本	657	700	575	△ 125
現金及び預金	95	125	105	△ 20
短期借入金	65	92	163	+ 71
長期借入金	222	209	139	△ 70
社債	70	70	70	± 0
有利子負債	357	371	371	± 0
D/Eレシオ (倍)	0.54	0.53	0.65	+ 0.12

- 当期純損失の計上により純資産と自己資本比率が減少、D/Eレシオは上昇
- 財政状況の懸念はない

目次

1 2021年度 決算概要

2 前中期経営計画総括

3 新中期経営計画

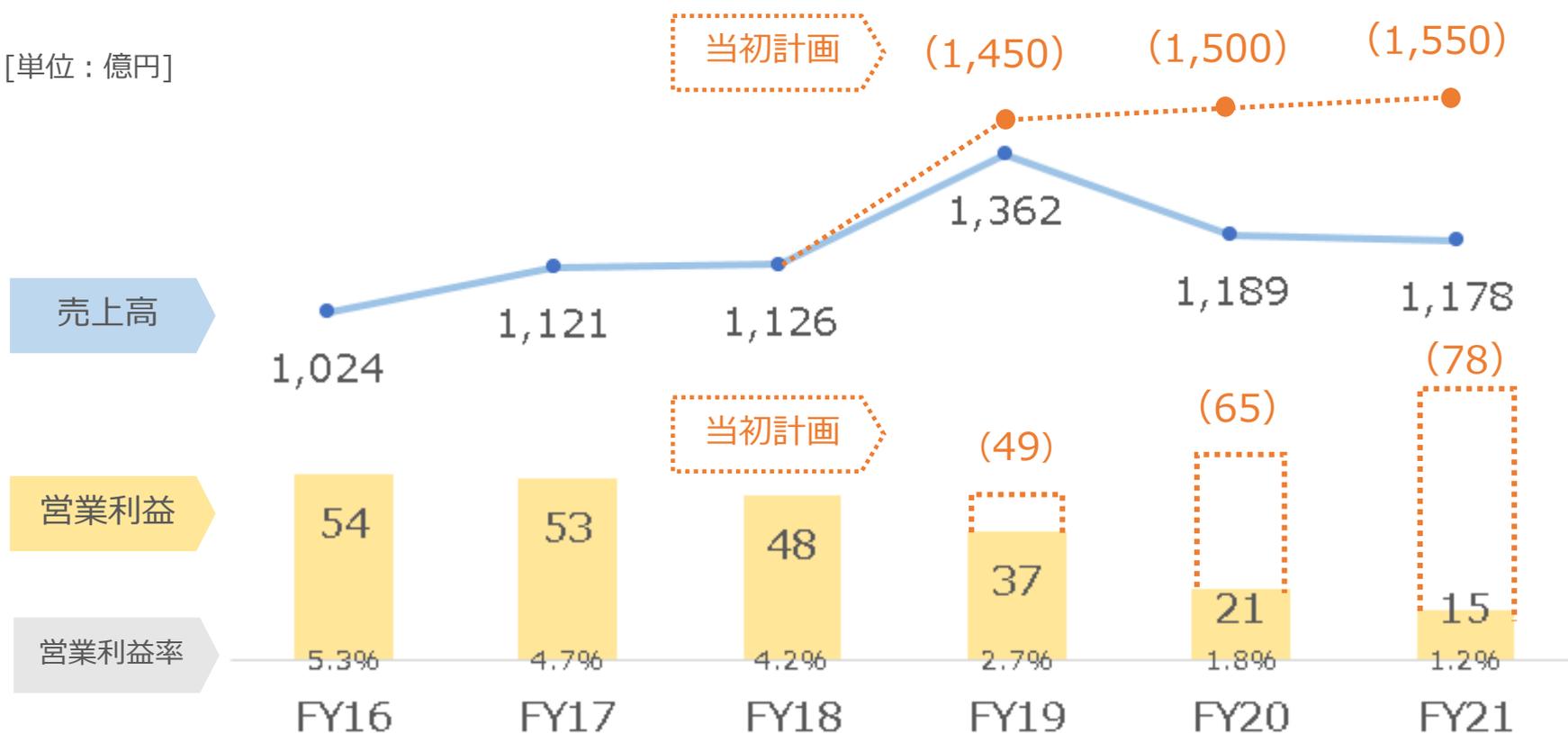
前中期経営計画総括

Make Innovations Stage-II

■ 連結業績推移

売上・利益ともに期初計画を大幅に下回る

[単位：億円]



Make Innovations Stage-II

前中期経営計画総括（業績）

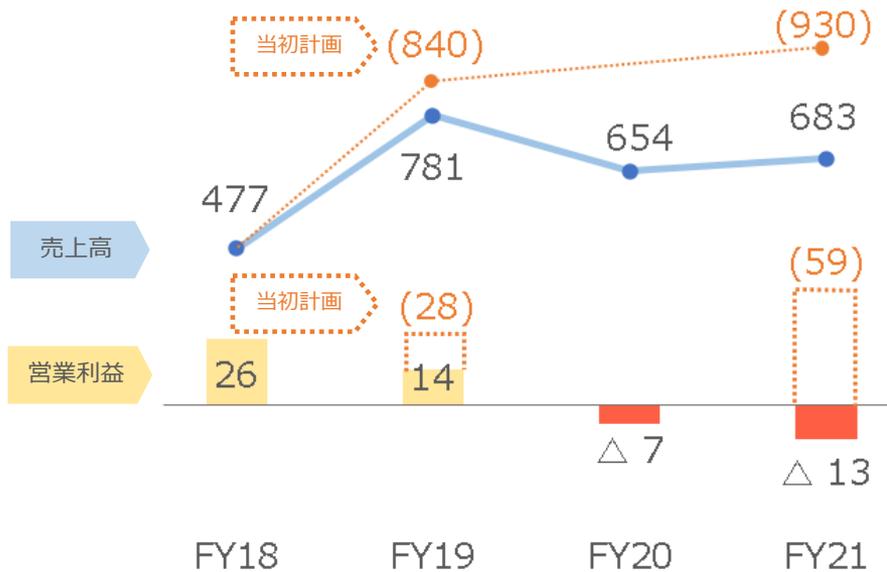
Make Innovations Stage-II

■ セグメント別業績推移

特に、工業分野で大きな計画乖離

新型コロナや半導体供給問題などの影響を受け、自動車関連を中心にグローバルに計画から大きく乖離

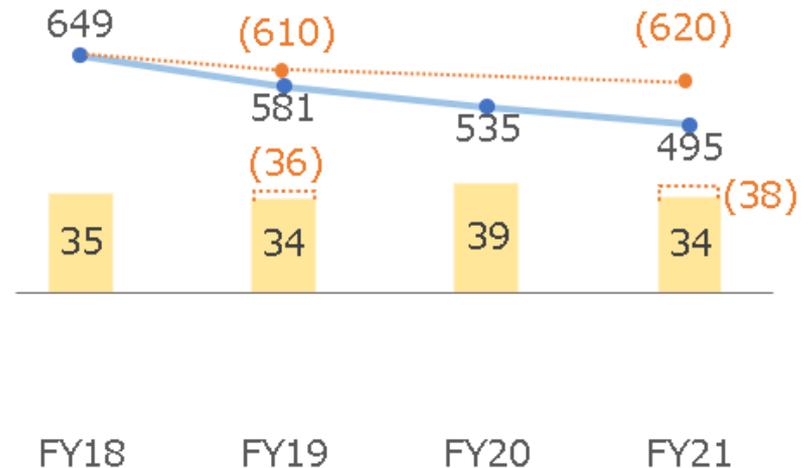
■ 工業分野



Make Innovations Stage-II

■ 生活分野

[単位：億円]



Make Innovations Stage-II

前中期経営計画総括

重点施策①「事業ポートフォリオの進化」

工業分野とグローバルへのポートフォリオ進化では一定の成果が出るも、「重点開発テーマ」は伸び悩む結果となった

工業分野売上高比率

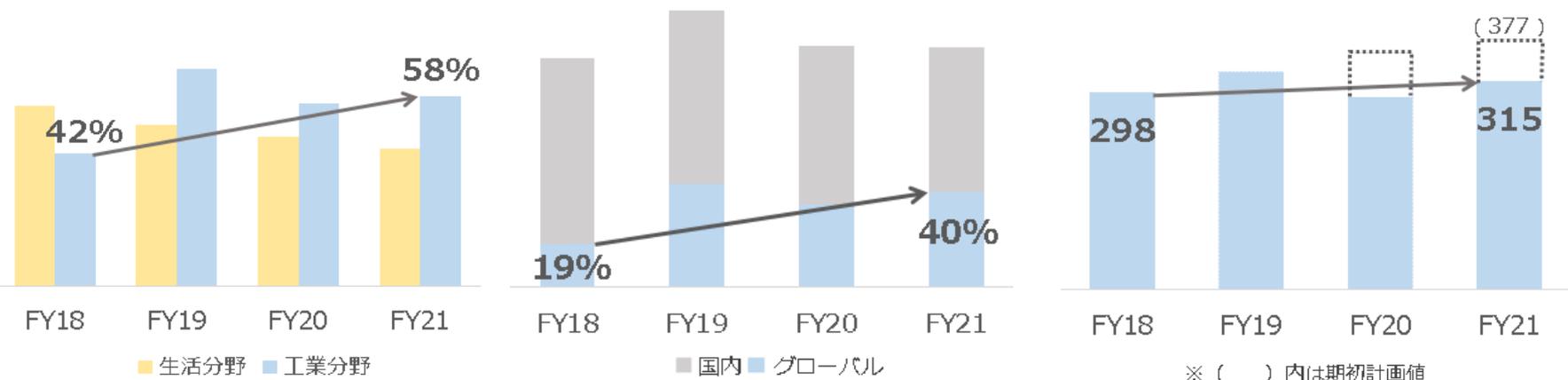
計画 60% ≥ 実績 58%

グローバル売上高比率

計画 37% ≤ 実績 40%

IDテーマ売上高※

計画 377億円 > 実績 315億円

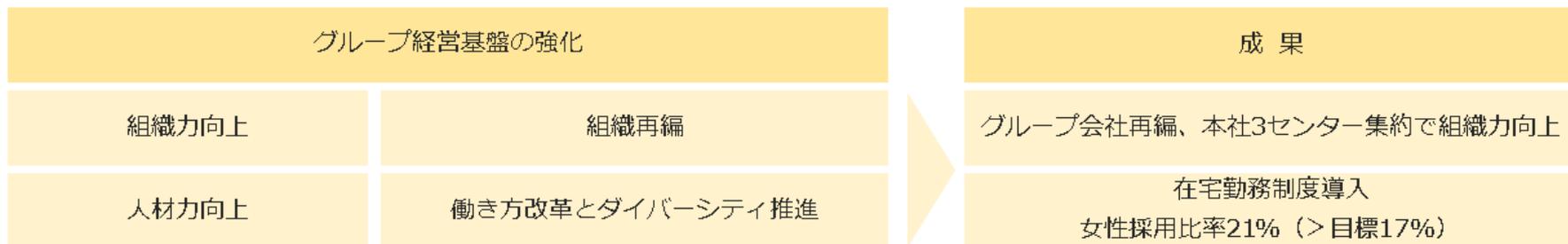


※ IDテーマ（重点開発テーマ）： 計画対比、テクポリマー・機能性食品容器で107%、自動車で75%、医療健康で54%

前中期経営計画総括

■ 重点施策②「グループ経営の基盤強化」

組織再編による体制整備と人材力向上が進捗



■ 重点施策③「持続可能社会への貢献」

2021年度目標を達成、2030年度目標の達成に向け着実に前進した



目次

1 2021年度 決算概要

2 前中期経営計画総括

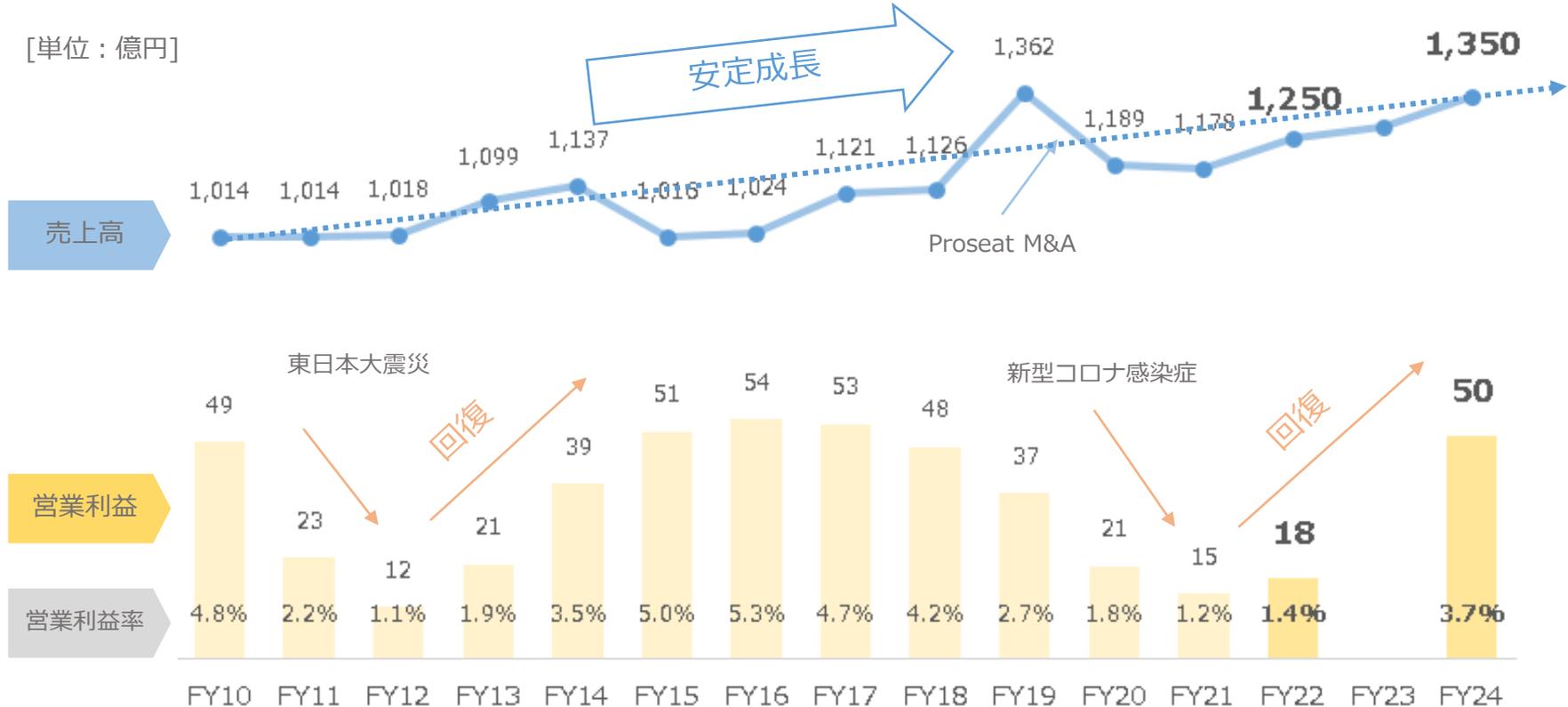
3 新中期経営計画

新中期経営計画の位置づけ

再成長に向け、収益のV字回復を目指す



[単位：億円]



新中期経営計画の概要

■ 計画名称 **Spiral-up 2024**

PDCAを循環させるとともに、「持続可能な社会の実現」への挑戦と「持続的な企業価値向上」を好循環させていきたいという意味を含めています

■ 基本方針

「持続可能社会への貢献」と「持続的な企業価値向上」の実現に向けて、「ESG経営」を土台に強靱な収益基盤を確立する

■ 定量目標

	2021年度 実績	2022年度 計画	2024年度 計画	3か年 平均伸長率
売上高	1,178 億円	1,250 億円	1,350 億円	5%
営業利益	15 億円	18 億円	50 億円	50%
経常利益	14 億円	16 億円	48 億円	50%
当期純利益	△ 59 億円	9 億円	30 億円	—
R O E	—	1.5%	3.0%	—

新中期経営計画

■ セグメント別 定量目標

(単位：億円)	2021年度 実績			2022年度			2024年度
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
売上高	594	584	1,178	600	650	1,250	1,350
インダストリー	356	327	683	346	364	710	750
ヒューマンライフ	238	257	495	254	286	540	600
営業利益	6.5	8.1	14.6	4.0	14.0	18.0	50.0
(営業利益率)	1.1%	0.1%	1.2%	0.7%	2.2%	1.4%	3.7%
インダストリー	△ 5.5	△ 7.8	△ 13.3	△ 2.0	9.0	7.0	39.0
ヒューマンライフ	15.3	18.4	33.8	13.0	14.0	27.0	34.0
本社コスト	△ 3.3	△ 2.6	△ 5.9	△ 7.0	△ 9.0	△ 16.0	△ 23.0

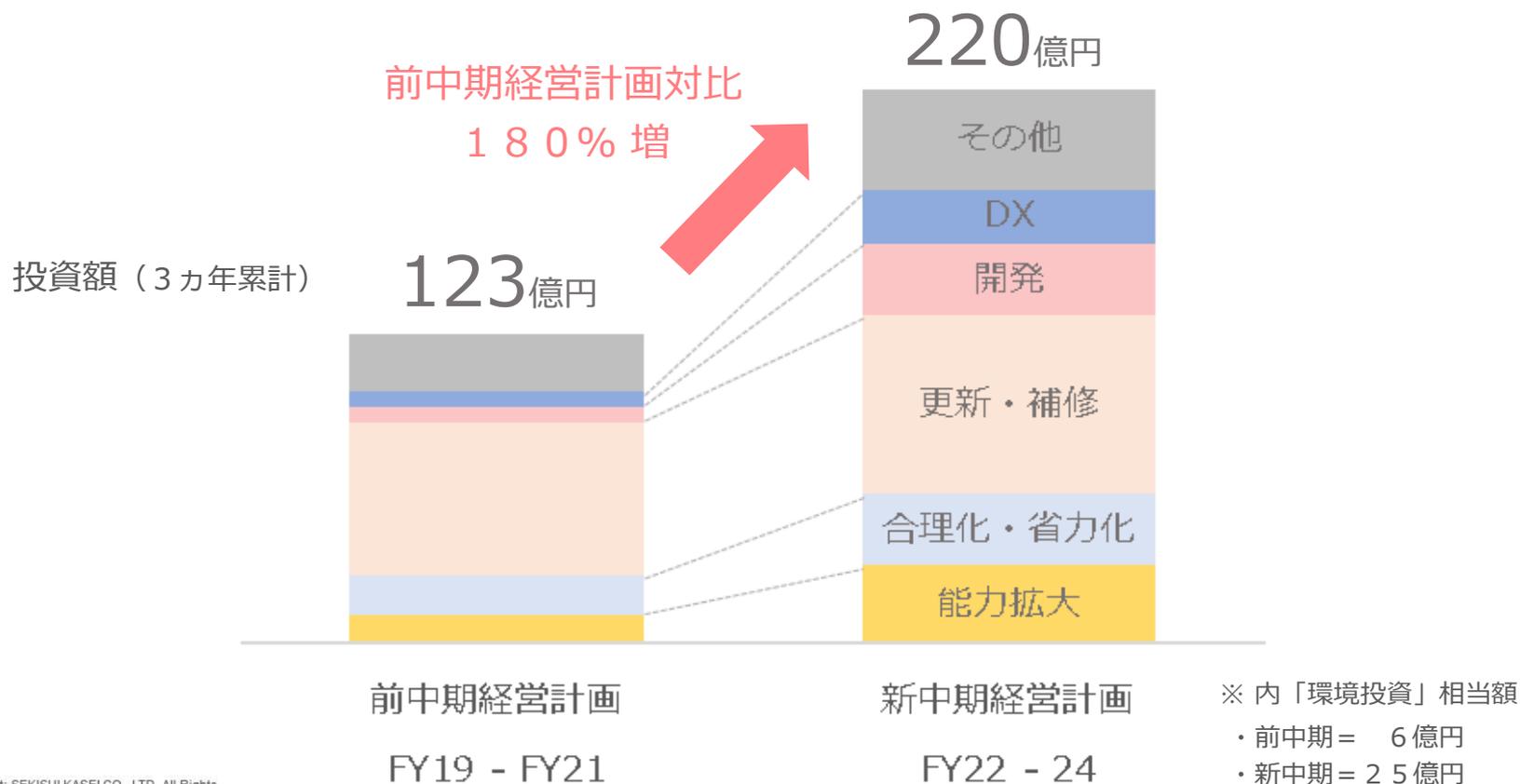
※ 新中期計画でセグメント内訳を一部見直し

※ 本社コストにはDXなどのシステム費用などを含む

新中期経営計画

■ 設備投資

新型コロナウイルス感染症拡大などの市場環境による投資抑制から、
環境・DX関連を含めた成長投資の強化へ



新中期経営計画 重点課題

1. 収益体質の強化

①事業ポートフォリオの再構築（5重点分野）



②Proseat事業の高収益体質構築

③生産革新によるコスト競争力の強化

④開発品の早期収益化

2. 環境・社会課題解決型事業への転換

⑤循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大

⑥カーボンニュートラル実現への挑戦

3. 経営基盤の強化

⑦マテリアリティ（経営重要課題）の取り組み強化

⑧財務体質の強化

計3課題、8テーマ

1. 収益体質の強化

① 事業ポートフォリオの再構築（5重点分野）



② Proseat事業の高収益体質構築

③ 生産革新によるコスト競争力の強化

④ 開発品の早期収益化

重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ①事業ポートフォリオの再構築

成長性を見込める領域に資源を再配分する

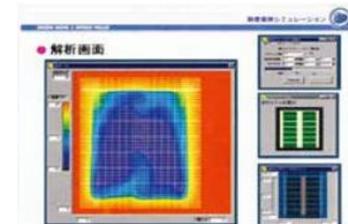
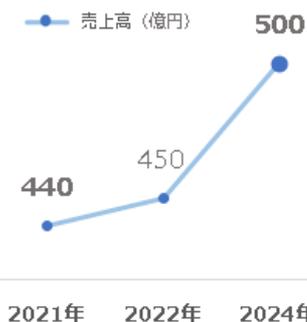
食	基盤領域	環境貢献製品の市場投入 食の安心・安全の提供やフードロス削減に寄与し 環境・社会課題の解決に貢献する
エレクトロニクス	注力領域	先端素材や環境貢献製品など 差別化製品で事業の高収益化をはかり デジタル技術の普及と高度化に貢献する
モビリティ		Proseatとのシナジー最大化と 新素材・新用途展開により EVなど次世代モビリティの技術革新に貢献する
医療・健康	期待領域	メディカル・ヘルスケア領域のニーズを 独自製品の高度化で応え グローバルに新たな価値を提供する
住環境・エネルギー		防災・減災やインフラ整備に対応する製品を展開し 持続可能なまちづくりに貢献する

※ インダストリー分野 = モビリティ、エレクトロニクス、医療・健康 ヒューマンライフ分野 = 食、住環境・エネルギー

重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ①事業ポートフォリオの再構築

<p>食</p>	<p>環境貢献製品の市場投入 食の安心・安全の提供やフードロス削減に寄与し 環境・社会課題の解決に貢献する</p>
<p>環境</p>	<p>環境貢献製品の市場投入</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ リサイクルプラを活用した発泡製品群 ▷ 生分解・バイオマスプラを活用した発泡製品群
<p>新規市場</p>	<p>需要構造の変化に対応した製品開発と安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 容器メーカーとともに新市場で求められるニーズに対応 ※ 内食中食・宅配関連市場など
<p>物流</p>	<p>食品の安心安全を支える製品と技術の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 品温解析技術を武器とした鮮度保持物流容器の提案 ▷ お客様の生産効率化・物流効率化に国内外で貢献



Spiral-up 2024

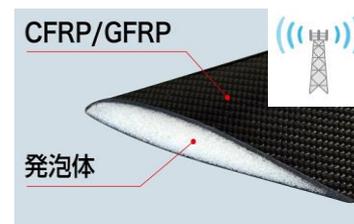
重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ①事業ポートフォリオの再構築

<p>エレクトロニクス</p>	<p>先端素材や環境貢献製品など 差別化製品で事業の高収益化をはかり デジタル技術の普及と高度化に貢献する</p>
<p>電子材料</p>	<p>電子材料分野における安定成長と領域拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ ディスプレイ用途の優位なポジション維持 ▷ 高速通信分野への領域拡大にチャレンジ
<p>包装資材</p>	<p>循環型ビジネスへの転換</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 環境貢献製品の市場投入 ▷ リサイクル体制の整備と循環型ビジネス展開
<p>構造部材</p>	<p>高速通信技術を支える構造部材の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ FRP + 高強度発泡複合構造体の用途展開 (アンテナ・基地局の外装構造材など)



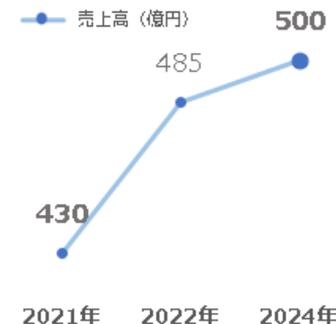
ReNew+
BIOCellular



重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ①事業ポートフォリオの再構築

Spiral-up 2024



モビリティ

Proseatとのシナジー最大化と
新素材・新用途拡大により
EVなど次世代モビリティの技術革新に貢献する

自動車部材

- EVなど次世代モビリティにおける採用拡大
- ▶ ピオセランの高倍化による更なる軽量化提案
 - ▶ Proseatとのシナジーによる次世代車両部材の先行開発
 - ▶ ST-Eleveatの実績化



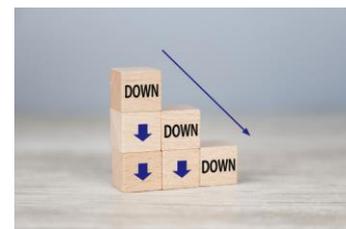
部品物流

- 強み（設計ノウハウ+環境対応力）を生かした拡販
- ▶ EV化で増加する部品への提案活動強化
 - ▶ 環境貢献製品の市場投入
 - ▶ リサイクル体制の整備と資源循環型ビジネス展開



競争力向上

- 徹底したコスト削減による競争力向上
- ▶ Proseatの生産効率改善、固定費圧縮、需要変動により迅速に対応できる体制構築
 - ▶ 原価企画のモデル工場への導入とグループ展開



重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ①事業ポートフォリオの再構築

Spiral-up 2024



医療・健康

メディカル・ヘルスケア領域のニーズを
独自製品の高度化で新たな価値を提供する

スポーツ

エラスティル用途拡大

- ▶ 新規用途開拓（スポーツ・健康用品他）
- ▶ スポーツシューズソール以外のシューズ用途拡大



スキンケア

スキンケア市場への販売チャネル拡大

- ▶ 生分解性・天然由来微粒子の市場提案
- ▶ AI技術を活用したテクノゲル（AI-Fit）の拡販



生体
センシング

テクノゲルの新規領域への展開

- ▶ 生活習慣病向けや乳幼児生体モニタリングなど
- ▶ TENS・EMS・ウェアラブル機器などのヘルスケア領域



重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ①事業ポートフォリオの再構築

住環境・エネルギー

防災・減災やインフラ整備に対応する製品を展開し
持続可能なまちづくりに貢献する

防災・減災

「国土強靱化基本計画」に対応する製品拡販

- ▷ 豪雨対策・地震対策
- ▷ 災害復旧

住環境整備

インフラ整備に対応する製品拡販

- ▷ グリーンインフラの拡大
- ▷ 社会インフラの整備

環境
エネルギー

持続可能な社会に貢献する製品拡販

- ▷ 環境貢献製品の市場投入
- ▷ 再生可能エネルギー（水上ソーラー・洋上風力発電）

Spiral-up 2024





重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ②Proseat事業の高収益体質構築

欧州自動車市場のメガトレンド

2050年EUカーボンニュートラルには自動車業界での脱炭素が不可欠



重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ②Proseat事業の高収益体質構築

グループシナジーを生かした差別化戦略

SEKISUIKASEI × proseat

SEKISUIKASEI
素材開発力 →← proseat
開発提案力

欧州OEMの高度化された要求事項に対し、
グループシナジーを最大化させ、差別化されたソリューションを提供する

～ グループシナジーの発揮による新規開発状況 ～

- ・ 新たな軽量構造部材用途への展開 ⇨ 受注済み案件あり
- ・ ST-Eleveat BIOなど環境対応新素材 ⇨ 欧州OEMと共同開発プロジェクトが複数進行中

重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ②Proseat事業の高収益体質構築

3 事業分野ごとの成長戦略

LWC
部門

- ・両社の強みを最大限に発揮する競合他社との差別化を明確にした最先端部材の開発
- ・PUフォーム・発泡体・金属のハイブリッドソリューション提案
- ・部品点数削減を実現するモジュール化コンセプト開発
- ・当社チャネルを活用した非自動車分野への参入

※LWC : Light Weight Component

Foam
部門

- ・次世代車両や自動運転で要求されるシート機能を先行開発
※快適性・安全性・軽量性・抗菌・静音防振など

Trim
部門

- ・商品ラインナップ見直しとOEM高級車シフトに対応する高機能高付加価値パーツの開発



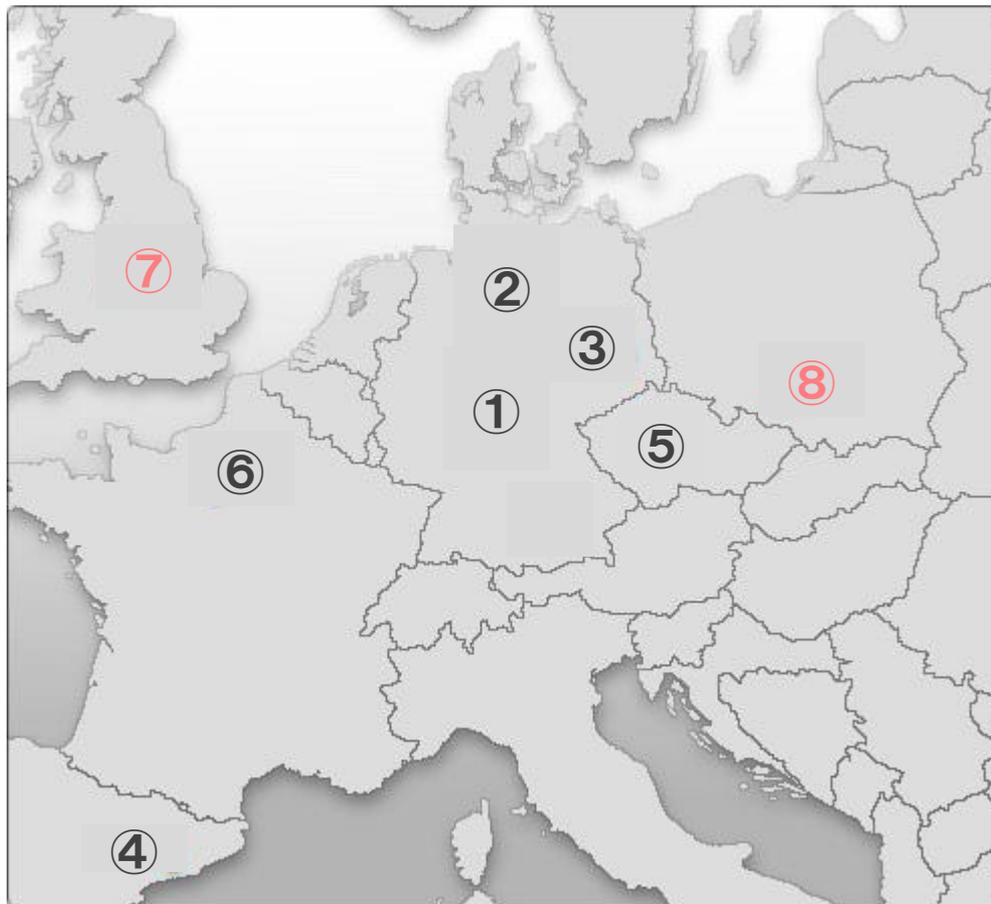
共通

- ・UK拠点撤退や東欧拠点統合による合理化推進
- ・生産効率の改善や固定費圧縮の継続
- ・需要変動により迅速に対応できる体制の構築

重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ②Proseat事業の高収益体質構築

UK拠点の撤退および東欧拠点の統合を実施



①KG (本社) Mörfelden	ドイツ	
②KG工場 Espelkamp	ドイツ	
③SW工場 Schwarzheide	ドイツ	
④SP工場 Santpedor	スペイン	
⑤CZ工場 Mladá Boleslav	チェコ	
⑥FR工場 Trilport	フランス	
⑦UK工場 Manchester	イギリス	撤退
⑧PL工場 Bielsko Biała Czechowice-Dziedzice	ポーランド	統合

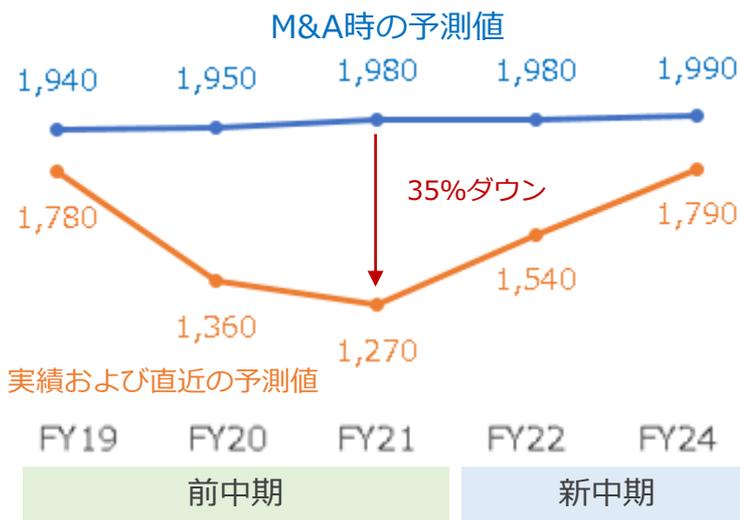


重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ②Proseat事業の高収益体質構築

需要はM&A時予測を大きく下回るも、2022年以降は緩やかに回復していく見通し

西中欧自動車生産台数 (単位：万台)



業績推移 (単位：億円)



構造改革

- ① 固定費、労務費圧縮 : コスト削減効果額△12億円、従業員△10% ※2021年→2022年度対比
- ② 拠点再編 : UK拠点の撤退、東欧生産拠点の統合を推進中
- ③ 生産性改善 : 自動化、集約化による合理化を推進中

重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ③生産革新によるコスト競争力強化

テクノロジー活用も含めた生産革新、モノづくり力の強化を継続的に進める

1. 新たな生産技術、新たな設備技術
2. 生産性向上による競争力強化
3. 生産現場の効率化・スリム化
4. 生産現場の安定稼働
5. 基礎技術力の伝承・強化

テクノロジーの積極的活用

DX AI IoT
ビッグデータ活用
RPA プロセス革新
VR・AR 遠隔操作
数値解析 画像解析
ロボット化 自動制御
シミュレーション

2024年度目標

原単位
8%
低減

コストダウン
20億円
削減

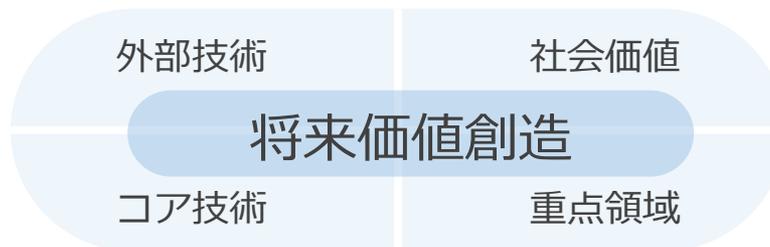
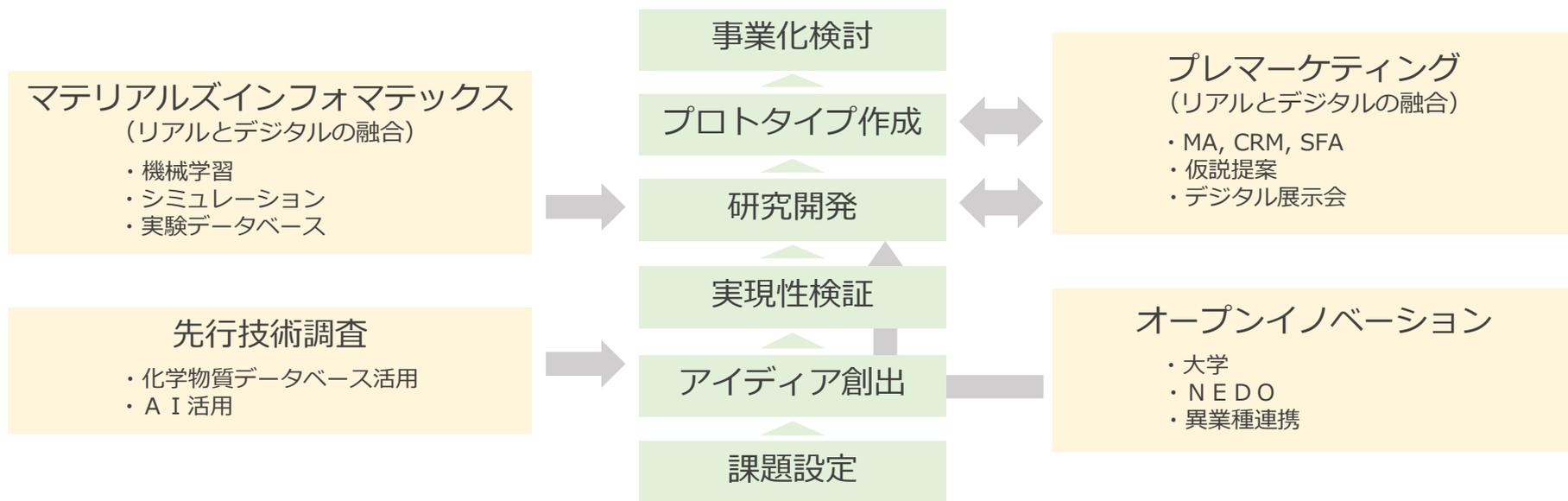
CO₂排出量
10%
削減

重点課題 1 「収益体質の強化」

■ ④ 開発品の早期収益化

RX（リサーチトランスフォーメーション）の考え方を体現する

～ 開発品による収益目標：2024年度全社営業利益の10%以上～



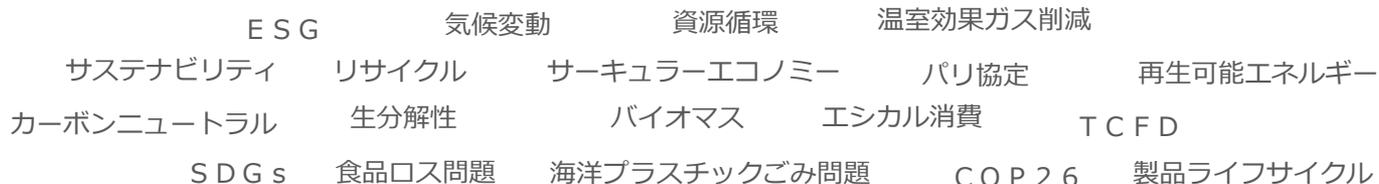
2. 環境・社会課題解決型事業への転換

- ⑤ 循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大
- ⑥ カーボンニュートラル実現への挑戦

重点課題 2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

外部環境

世界的に「環境・社会課題解決」が活発な動き



当社が目指す方向性

「環境・社会価値と経済価値の両立」

循環経済（サーキュラーエコノミー）を軸に据えた事業構造転換
2050年 カーボンニュートラル達成

SKG-5R

新設「GX推進部」が全社を牽引 ※2022年4月1日発足

重点課題2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

Spiral-up 2024

■ ⑤循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大

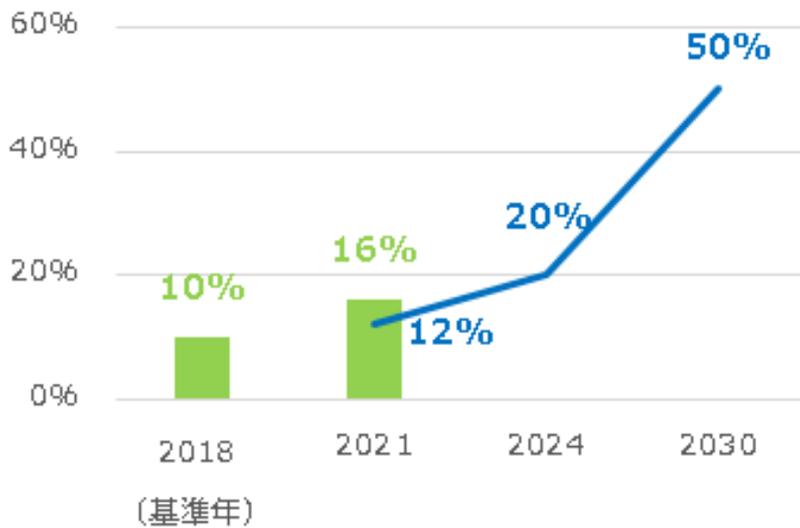
SKG-5R

SKG-5R 2030年目標に向けた進捗 [環境貢献製品の創出と拡大]

売上高比率



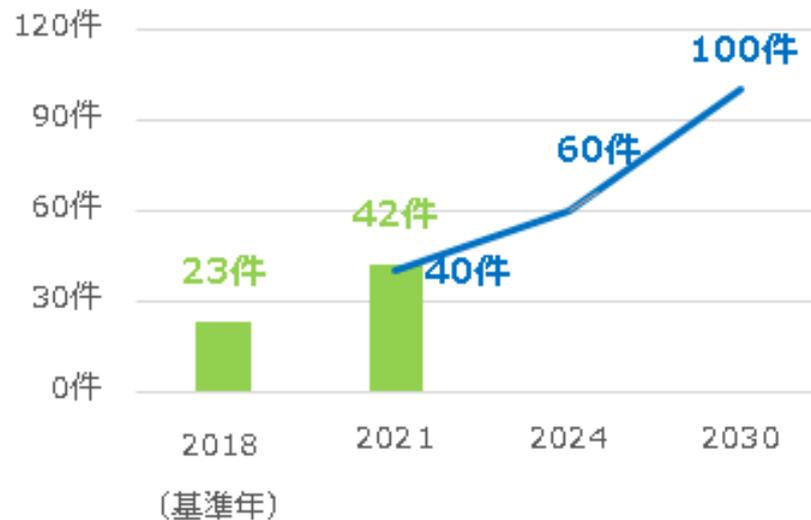
■ 実績 ■ 計画



登録件数



■ 実績 ■ 計画



重点課題 2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

Spiral-up 2024

■ ⑤循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大

SKG-5R

生分解性またはバイオマス原材料を活用した製品カテゴリーブランド

BIOCellular**テクポリマー BIO**

生分解性微粒子

エラストイル BIOバイオマス由来
エラストマー発泡体**ライトロン BIO**バイオマス由来
発泡ポリエチレンシート**ST-Eleveat BIO**バイオマス由来
高耐熱軽量発泡体

今後も製品ラインアップを拡充していきます

重点課題2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

■ ⑤循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大

Spiral-up 2024

SKG-5R

リサイクル原材料を活用した製品カテゴリーブランド

ReNew+

エスレンビーズ RNW

リサイクル
発泡性ポリスチレンビーズ

エスレンシート RNW

リサイクル
発泡ポリスチレンシート

ライトロン RNW

リサイクル
発泡ポリエチレンシート

ST-Eleveat RNW

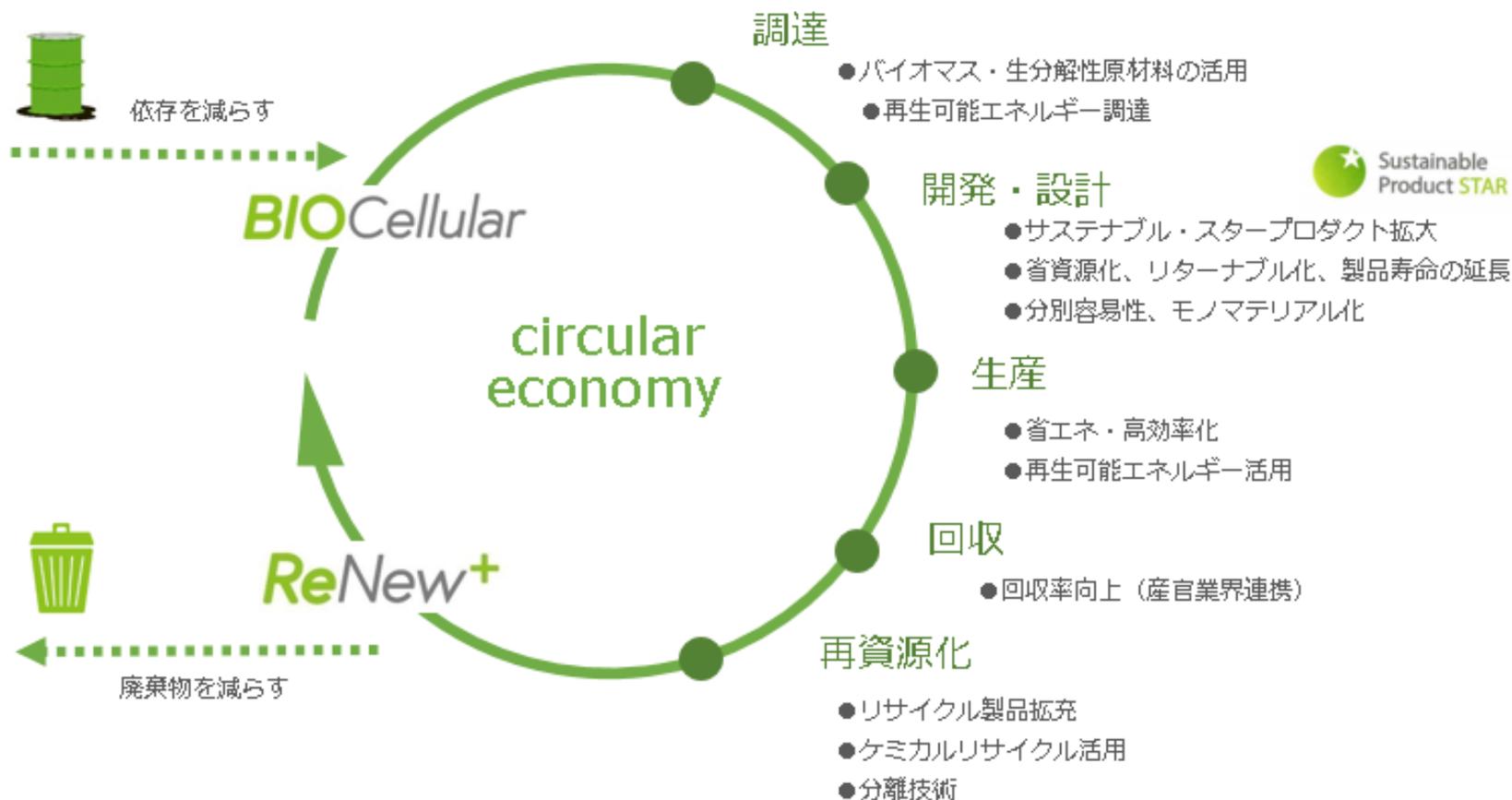
リサイクル
高耐熱軽量発泡体

今後も製品ラインアップを拡充していきます

重点課題 2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

■ ⑤循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大

循環経済（サーキュラーエコノミー）を軸に据えた事業構造に転換



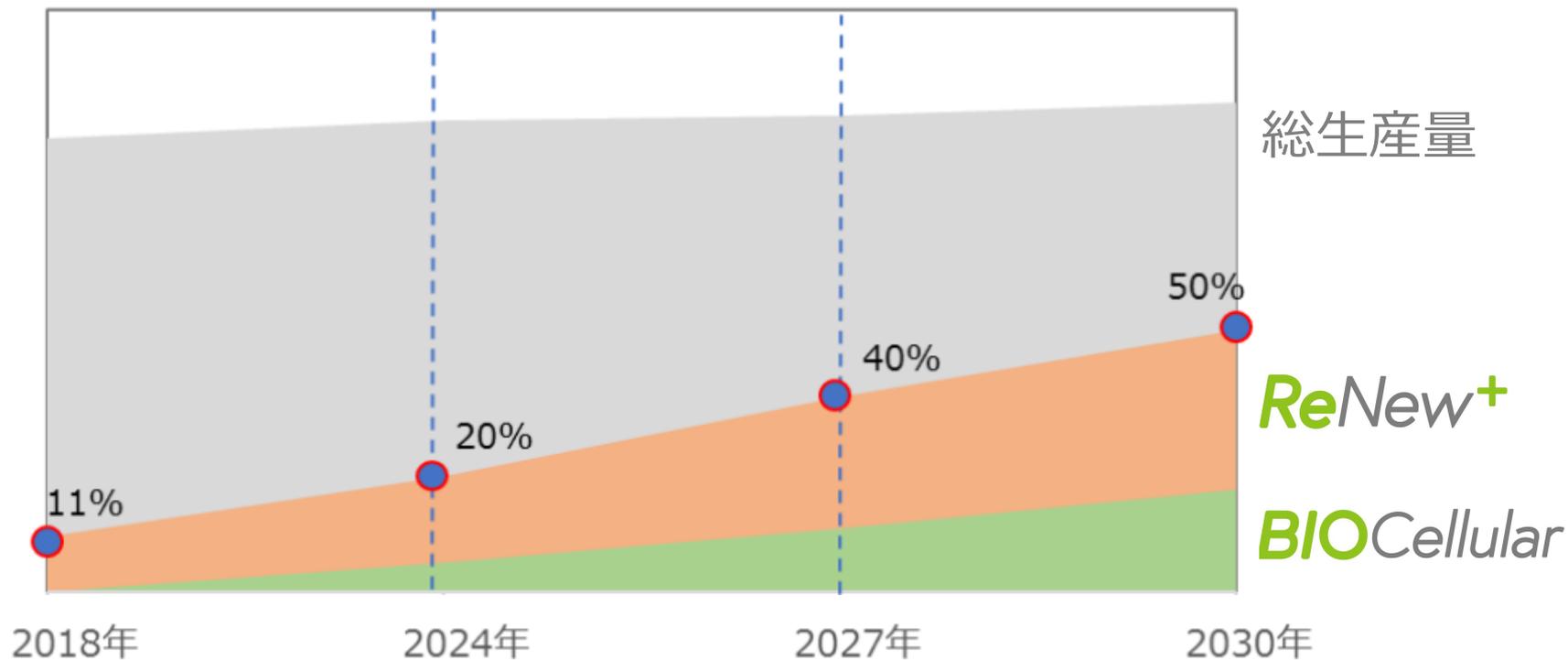
重点課題 2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

Spiral-up 2024

■ ⑤循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大

SKG-5R

リサイクル+バイオマス比率 2030年までに50%以上を目指す



重点課題2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

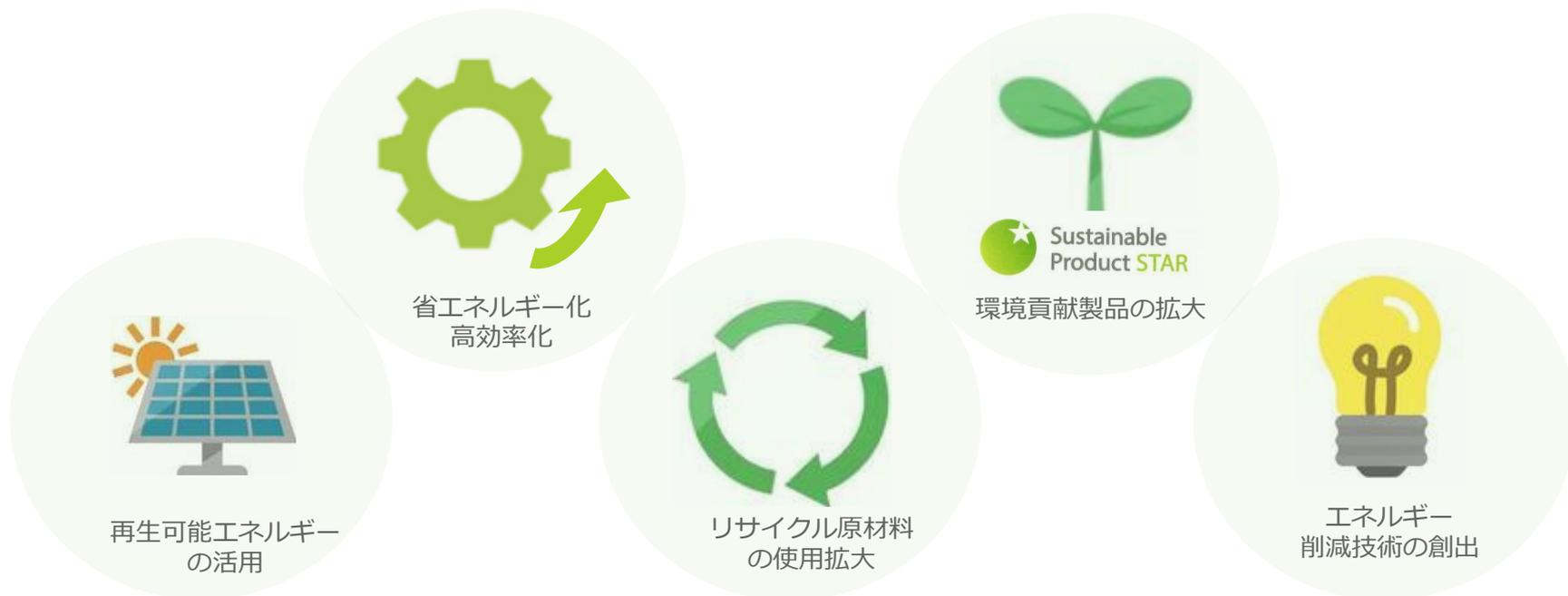
■ ⑥カーボンニュートラル実現への挑戦

2050年 カーボンニュートラルを目指す

事業活動に伴う
CO₂排出量の最小化

×

技術・製品など
新たな価値創造によるCO₂削減

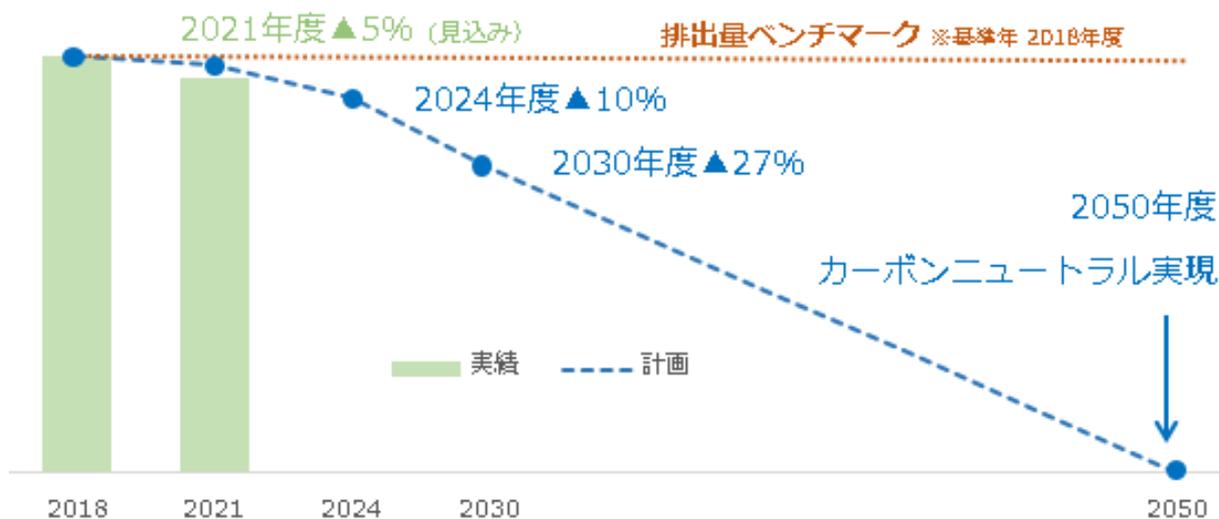


重点課題 2 「環境・社会課題解決型事業への転換」

■ ⑥カーボンニュートラル実現への挑戦

SKG-5R 2030年目標に向けた進捗 [CO₂排出量削減]

<p>目 標</p>	<p>2050年度 CO₂ 排出量を実質ゼロにする。 2030年度 CO₂ 排出量 (Scope1+2) を、18年度比27% 削減する。</p>
<p>主な施策</p>	<p>生産プロセスの合理化と省エネルギー化の推進 燃料の脱炭素化、再生可能エネルギーへの切り替え 環境投資枠の活用による新規プロセスの開発と新規生産設備の導入 環境貢献製品 (サステナブル・スタープロダクト) の創出と事業拡大</p>



3. 経営基盤の強化

- ⑦ マテリアリティ（経営重要課題）の取り組み強化
- ⑧ 財務体質の強化

重点課題3 「経営基盤の強化」

■ ⑦ マテリアリティの取り組み強化

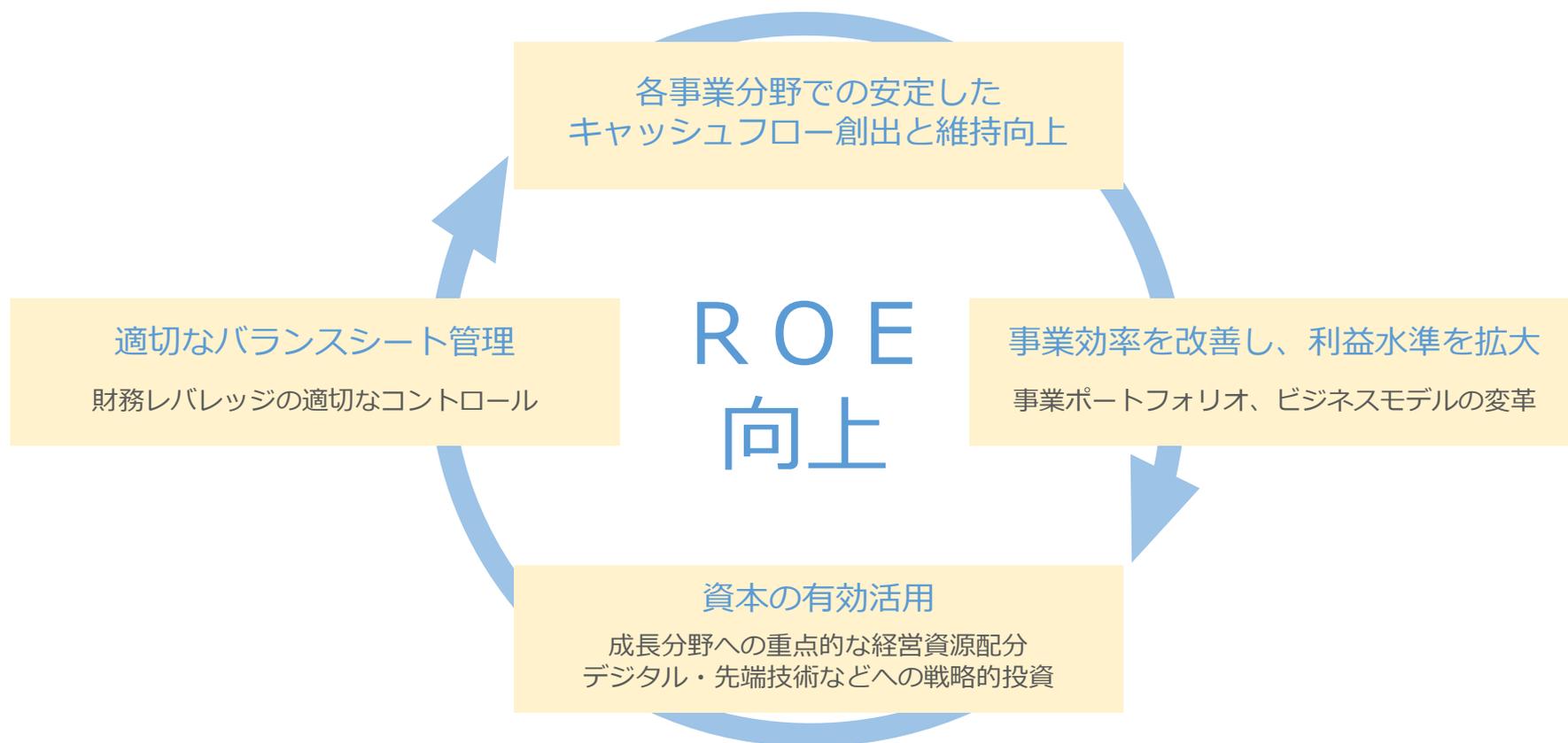
特定したマテリアリティのPDCAマネジメントを徹底、経営基盤の強化を図る

	カテゴリー	マテリアリティ
E	環境	環境貢献製品の創出と拡大 気候変動対応 環境負荷低減
	革新	ビジネスモデルの強靱性 DX
S	人材	ダイバーシティ 働き方改革 ワークエンゲージメント
	品質・保安防災	安全・安心の提供
G	ガバナンス	コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント

重点課題3 「経営基盤の強化」

■ ⑧財務体質の強化

「P L重視の経営」から「資本効率重視の経営」へ、ROE向上を図る
キャッシュフロー改善、運転資本回転率を重視



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

★内容に関するお問合せは

コーポレート戦略本部 I R広報部 E-mail : ir_pr@sekisuikasei.com

★当社のホームページもあわせてご覧ください。

アドレスは <http://www.sekisuikasei.com/>

SEKISUIKASEI[•]

Our Planet. Our Tomorrow.